



TOHOKU
UNIVERSITY

NEWS LETTER



TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

2026.06

Vol.
33

総括副院長（歯科診療部門長）就任の挨拶

東北大学病院
総括副院長（歯科診療部門長）

飯久保 正弘



1994年 東北大学歯学部 卒業
1994年 東北大学歯学部附属病院口腔診断・放射線科
研修医 医員
1998年 東北大学歯学部口腔診断・放射線学講座 助手
2006年 東北大学大学院歯学研究科口腔診断学分野 講師
2016年 東北大学病院周術期口腔支援センター長 特命
教授
2020年 東北大学大学院歯学研究科歯科医用情報学分野
教授
2021年 東北大学病院顎口腔画像診断科 科長(兼務)
東北大学病院周術期口腔健康管理部 部長(兼務)

2026年4月1日付で東北大学病院総括副院長（歯科診療部門長）に就任いたしました、飯久保正弘です。東北大学病院は、創設以来、東北地方における医療の砦として、また世界をリードする研究・教育機関として、多大な貢献を果たしてまいりました。その伝統ある東北大学病院の総括副院長（歯科診療部門長）という重責を担うこととなり、使命の重さに身が引き締まる思いです。

私は1994年に東北大学歯学部を卒業しました。卒業後は、東北大学病院口腔診断科にて、三条大介教授と笹野高嗣教授のもと口腔診断学および歯科放射線学を学びました。特に笹野教授からは「診断の極意」として、「人の話をよく聞くこと」と「局所（歯）にとらわれず、広く全体（口腔や全身）をみわたすこと」の重要性を教わりました。2016年からは、周術期口腔支援センター（現 周術期口腔健康管理部）のセンター長（現 部長）を兼務させていただいています。就任時には、当時総括副院長であった高橋哲教授とともに医科部門の科長の先生にご挨拶に伺いました。その後、病院入退院センターとの連携によりスムーズな入院患者の口腔管理を行えるシステムを構築したため、入退院センターの看護師長と一緒に各診療科の医局会に参加し、システムについて説明する機会をいただきました。このようにして医科

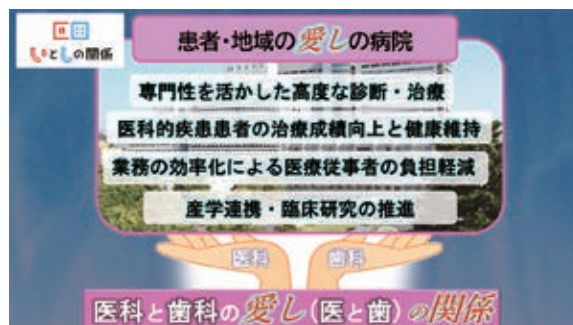
部門の先生方と直接顔を合わせ様々な議論を重ねる中で、東北大学病院における歯科部門の果たすべき役割の大きさを改めて実感しました。同時に、医科部門の方々が歯科部門との更なる連携に大きな期待を寄せていることも強く感じました。

2020年度より、五十嵐薫元総括副院長のもと歯科部門執行部として医科歯科連携を担当いたしました。2022年度には、江草宏元総括副院長（現副院長）のもと医科歯科連携に加えて感染対策・医療安全も担当させていただきました。この時期には、江草副院長とともに「愛し（医と歯）の関係」という親しみやすいキャッチコピーを考え、医科歯科連携に関するホームページやロゴ（図参照）の作製を行いました。おかげで今では、東北大学病院は名実ともに日本でトップクラスの医科歯科連携の充実した病院として広く認知されています。

東北大学病院の理念は、「先進の医療を優しさとともに」です。私は広い領域でデジタル化を進めることが患者さん、医療従事者、そして環境にも優しい歯科医療につながると思っています。私の歯科部門長の任期に、歯科医療デジタルの利活用的高度化を強く推し進めていきたいと思っています。デジタル化の推進による歯科医療の高度化・効率化と新たな教育ツールの開発、AIの利活用による新たな歯科医療の開発、3Dプリンター等の歯科部門が有するデジタル技術を医科部門へ広く提供することによる新たな医科診療サポート技術の開発、そして遠隔診療の推進による地域歯科との連携強化と医療の均てん化に努めたいと思います。課題も多いですが、江草副院長の経験と山内健介副院長の若い力を中心に、歯科部門の先生方や事務職員の方々、そして地域歯科医師会の先生方のご協力のもと鋭意進めていきたいと思っています。そして、地域の方々から「愛しの病院」と思っただけのように歯科部門が一丸となって尽力していきます。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

INDEX

- p1 ・ 巻頭言／飯久保正弘 総括副院長
- p2 ・ 新任教授紹介／細矢明宏 教授
 - ・ 日本オープンイノベーション大賞 厚生労働大臣賞を受賞
- p3 ・ 歯学から発信する東北大学MOOCシリーズ「SHOKU-gaku 一食学」
 - ・ PRESS RELEASE
 - ・ 『腸の病気は顎骨破壊も悪化させる一腸炎で悪化した顎骨破壊に対する新治療技術開発一』
- p4 ・ 各種おしらせ



▲ 医科歯科連携図

教授就任のご挨拶

顎口腔組織発生学分野 教授

細矢 明宏

1997年 新潟大学歯学部 卒業
 2001年 新潟大学大学院歯学研究科 博士課程修了
 2001年 新潟大学歯学部附属病院 医員
 2001年 松本歯科大学口腔解剖学第2講座 助手
 2007年 松本歯科大学口腔解剖学第2講座 助教
 2009年 松本歯科大学口腔解剖学第2講座 講師
 2017年 北海道医療大学歯学部組織学分野 准教授
 2020年 北海道医療大学歯学部組織学分野 教授
 2025年 東北大学大学院歯学研究科顎口腔組織発生学分野 教授

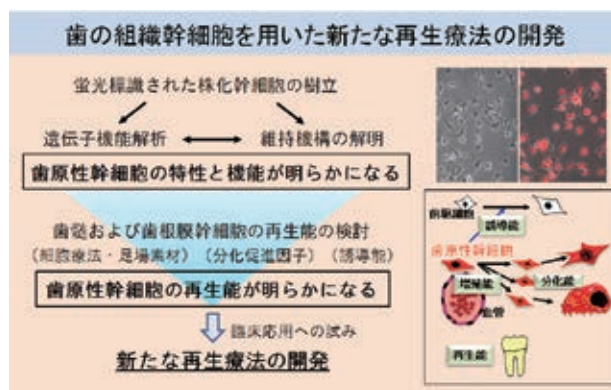


この度、2025年8月1日付けで東北大学大学院歯学研究科顎口腔組織発生学分野の教授を拝命いたしました細矢明宏と申します。この場をお借りして、皆様に謹んでご挨拶申し上げます。私は1997年に新潟大学歯学部を卒業後、当時3Mix(3種混合抗菌剤)療法を開発、臨床応用しておりました新潟大学歯学部歯科保存学第一講座(現う蝕学分野)の大学院へ進学しました。この時、研究は口腔解剖学第一講座の小澤英浩教授のご指導の下、電子顕微鏡や免疫組織化学などを用いた硬組織の形態学的解析法を学び、組織学という学問に惹かれるようになりました。大学院卒業後は臨床医として歯科医療に携わるであろうと考えていましたが、縁あって小澤教授とともに松本歯科大学口腔解剖学講座へ赴任し、教育・研究の道を志すこととなりました。その後、2017年に北海道医療大学歯学部組織学分野に准教授として赴任し、2020年から5年間、同大学で教授として教育と研究を担当しました。

幹細胞研究の進展から、歯髄および歯根膜に多分化能を有する組織幹細胞が存在することが明らかにされ、象牙質ならびに歯周組織再生療法における幹細胞の応用が検討されています。私はこれまで、細胞系譜

解析法により、歯髄および歯根膜に骨芽細胞へ分化する未分化細胞が存在することを明らかにしました。また、ヘッジホッグシグナルの下流因子であるGli1に注目し、この因子を発現している細胞が組織幹細胞であることを証明しました。東北大学では、Gli1と異なる遺伝子においても細胞系譜解析が可能なマウスを作製し、歯の幹細胞研究を進めています。当然ですが、マーカーが異なると標識される細胞の分化能も違うため、どのマーカー遺伝子がより未分化な細胞を標識しているかを検索する必要があります。今後も歯の幹細胞の特性を解析し、新しい再生療法の開発につながる研究をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様におかれましては今後も引き続きご指導、ご鞭撻のほどを、よろしくお願い申し上げます。皆様のますますのご活躍を祈念しつつ、就任のご挨拶とさせていただきます。



日本オープンイノベーション大賞 厚生労働大臣賞を受賞

先端フリーラジカル制御学共同研究講座 教授 中村 圭祐

2026年2月9日に東京で開催された「第8回日本オープンイノベーション大賞」表彰式において、東北大学大学院歯学研究科先端フリーラジカル制御学共同研究講座とLuke株式会社による共同研究成果『産学官連携による世界初の歯周病治療器「ブルーラジカルP-01」・行動変容アプリ「ペリミル」の社会実装』が、厚生労働大臣賞を受賞しました。本賞は、先導的かつ独創的なオープンイノベーションの取組を顕彰するものであり、歯学研究科の長年にわたる研究開発と社会実装への挑戦が高く評価されたものです。

本治療器の開発は、2007年に菅野太郎教授(当時助教)の研究グループが開始した過酸化水素の光分解反応で生成するラジカルに関する基礎研究を出発点としています。その後、地域イノベーション創出事業(東北経済産業局)、課題解決型医療機器等開発事業(経済産業省)、革新的医療機器創出・開発促進事業(宮城県・厚生労働省)などの支援を受けながら、過酸化水素光分解法を基盤とする殺菌技術の研究、試作治療器の開発、さらに治験機器の開発へと発展してきました。東北大学が基礎研究から医師主導治験までを担い、科学的原理の確立と治験機器を用いた歯周病治療の臨床的有効性・安全性の実証を達成しました。

Luke株式会社は、本学の研究成果を基盤として機器開発、製品化、事業化を担い、社会実装を実現しました。新規の歯周病治療器として販売されている「ブルーラジカルP-01」は、スケーラーチップ先端から過酸化水素と光を同時に放出して作用させることで、殺菌作用の高いラジカルを発生させ、治療成績の向上を目指すものです。また、「ペリミル」は患者の行動変容を支援するアプリであり、口腔健康への関心を高め、良好

な口腔衛生状態の維持を後押しします。

現在、当研究室では、過酸化水素光分解殺菌技術をインプラント周囲炎やう蝕の治療へと応用展開するため、企業や学内外の研究者と共同研究に取り組んでいます。また、歯学分野にとどまらず、整形外科領域の感染症や獣医療への展開も進めています。今後もオープンイノベーションを通じた医療技術・医療機器の創出により、歯学研究科のさらなる発展と社会貢献を目指してまいります。



▲ 第8回日本オープンイノベーション大賞表彰式において、先端フリーラジカル制御学共同研究講座のメンバーとLuke株式会社関係者

歯学から発信する東北大学MOOCシリーズ「SHOKU-gaku—食学—」

東北大学グローバル戦略室
歯学研究科国際連携推進部門長
歯学研究科長補佐・教授

洪 光

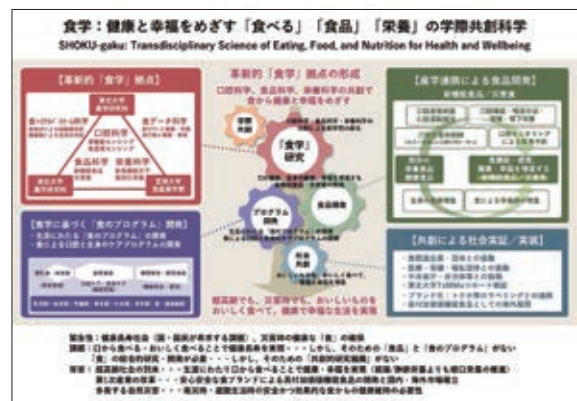


MOOC (Massive Open Online Courses: 大規模公開オンライン講座)とは、本格的な大学授業を世界中から気軽に無料で受講できる新しいオンライン学習サービスである。特徴として、1講座10分程度に区切られたビデオ講義を週9回、合計4週間受講するものになっており、受講者が気軽に受講できるように工夫されている。しかも、達成度を測るためのテストを用意されており、一定の成績を修めた学習者には修了証を発行することができ、世界中で学部・大学教育の一環として使用されるケースが多い。東北大学はオンライン教育システムの充実化について長年取り組んでおり、MOOCシリーズとして一般者向けの「東北大学サイエンスシリーズ」および大学進学を目指す中高生向けの「東北大学で学ぶ高度教養シリーズ」を提供してきた。2023年には新シリーズとして大学院進学を希望する日本人および留学生向けに、すべて英語による「東北大学アドバンストシリーズ」の開講を決め、シリーズ第一号として歯学研究科・歯学部からの「食学」が選ばれ、2025年から開講することになった。アドバンストシリーズとして東北大学を代表し、歯学研究科のコースが選定されるということは、東北大学における歯学研究科のプレゼンスの表れでもあり、「食学」が社会的に重要なトピックスであることも示している。

歯学研究科では2020年に、農学研究科および宮城大学食産業学群と連携し、世界初の学際共創科学として「食学 (SHOKU-gaku)」を創成し、「革新的食学拠点」の設置により、その知識の普及を進めてきた。高齢化が進行している日本のみならず、世界において健康の源になる「食

べること」を追求する上で、口腔からの全身健康の実現は喫緊の課題であり、取り組むべき重要な分野である。「食学」は食べることに限らず、食品科学、栄養科学にも焦点を当て、異分野連携による口腔からの全身健康への実現を目指しており、今回のMOOCは東北大学発のこれらの知識・コンセプトを広く世界に広げ、国際連携による口腔からのウェルビーイングの実現に一石を投じた取り組みであると言えるだろう。

国際卓越研究大学である東北大学の一部局として、歯学研究科はこれらの取り組みを更に強化し、「食学」を基軸とした新たな口腔健康科学を創設し、口腔からのウェルビーイングの実現に一層邁進していく所存である。



▲ 食学のコンセプト

PRESS RELEASE

腸の病気は顎骨破壊も悪化させる

— 腸炎で悪化した顎骨破壊に対する新治療技術開発 —

東北大学大学院歯学研究科の中野将人助教、田中志典講師、齋藤正寛教授らの研究グループは、腸炎 (炎症性腸疾患: IBD) が根尖性歯周炎 (AP) による顎骨破壊を悪化させるメカニズムを解明するとともに、この病態に対する新たな薬剤送達技術 (LDDS) を開発しました。

根尖性歯周炎は、むし歯に始まり、歯の根の先端で炎症が起こり顎の骨を溶かす疾患です。IBD患者ではAPが重症化しやすく、標準的な根管治療では治りにくいことが課題でした。研究グループはこの病態を動物モデルで再現 (IBD+APモデル) することに成功し、腸炎によって顎骨内の免疫細胞 (好中球) が過剰に活性化し、骨破壊が著しく増悪することを報告しました。

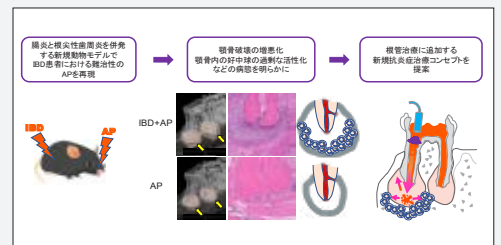
さらに本研究では、Er:YAGレーザーを用いて「キャビテーション」と呼ばれる物理現象を応用し、根管を経由して顎骨へ抗炎症薬を直接浸透させる新規局所投与技術を開発。通常の根管治療にこの技術を追加し、腸炎を伴うAPIにおける顎骨破壊の進行を抑制できることを示しました。

本成果は動物実験による検証ではありますが、今後は臨床現場での応用を見据えた研究へと発展させていく予定です。この技術はこれまで根管治療を繰り返しても改善せず、抜歯以外の選択肢がなかった患者に対し、歯を残す可能性を提案できる治療技術として期待されます。

本研究成果は、2026年2月9日付けで国際歯科学術誌 Journal of Dental Research に掲載されました。

研究成果・プレスリリース一覧 (2025年11月-2026年4月)

- 2025年 11月26日 骨の表面にピタッと貼れるセラミック接着材 — 医療デバイスの簡便な固定処置を目指して—
- 2026年 1月14日 反対咬合 (受け口) は歯20本未満リスクが1.48倍 — 1.7万人解析 かみ合わせが歯の寿命を左右—
- 2026年 1月21日 骨細胞のリポカリン-2が破骨細胞形成を促進 — 矯正歯科治療時の低酸素環境による骨代謝を制御の解明に一步—
- 2026年 2月 3日 「受け口」患者の咀嚼時脳血流と認知機能の関連を解析 — 患者群内で関連関連が認められることを確認—
- 2026年 3月 6日 都道府県単位の明確な条例が学校フッ化物洗口の普及を後押し
一条例施行後、フッ化物関連の記載がない場合と比較して「フッ化物洗口」で8%、「フッ化物応用」で5%の追加的な増加—
- 2026年 3月19日 嚥下障害と口腔機能の関連を明らかに — 舌圧の低下が咽頭残留のリスクに—
- 2026年 3月27日 有望な骨補填材の骨再生力を増強 — リン酸ハカルシウム/ゼラチン/コラーゲン様ペプチド組成が骨形成を促進—
- 2026年 4月 1日 後期高齢者の外来医療費における自己負担割合の引き上げによる外来医療利用の減少は一時的なものに留まった
— 数ヶ月で制度変更前の水準に回復—
- 2026年 4月15日 免疫細胞が血管をつくり骨再生を促進 — 新規生体活性ガラスによる再生医療の新戦略—
- 2026年 4月23日 石灰化筋壊死症を再現する新規マウスモデルを確立 — ヘビ毒を用いて、外傷後に長期残存する筋石灰化を再現—



詳細は歯学研究科・歯学部ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.dent.tohoku.ac.jp/news/index.html#?press>



NEWS (2025年10月～2026年4月)

- 2026年3月25日(水)～28日(土)に米国サンディエゴで開催された世界最大の国際歯科研究学会(IADR)にて、分子・再生歯科補綴学分野の大学院生 土井菜奈さんが、再生歯科補綴学研究賞(Pre-Prosthetic Regenerative Scientific Award)第1位を受賞しました。
 - スイス・チューリッヒ大学歯科医学センター(University of Zurich Center for Dental Medicine)と、研究および学術交流の推進を目的とした学術交流協定(MoU)を締結しました。
 - 2025年12月7日(日)に開催された「仙台若者チャレンジアワード2025」最終審査会において、歯学部学生サークル 歯科医療研究会が、仙台市特別賞を受賞しました。
 - 2025年12月1日(月)、2023年に南三陸町で発見された震災遺体の身元確認に関する貢献により、歯科法医情報学分野の鈴木敏彦准教授(災害・環境歯学研究センター長)に宮城県警察本部長より感謝状が贈呈されました。
- ニュースの詳細は、歯学研究科ウェブサイトをご覧ください。
(<https://www.dent.tohoku.ac.jp/>)

2026年度行事予定 (2026年6月～12月)

6月22日(月)	創立記念日
7月10日(金)	大学院入試(10月入学および1次募集)
7月29日(水)、30日(木)	オープンキャンパス
9月25日(金)	学位授与式
12月4日(金)	大学院入試(2次募集)

人事 (2025年12月～2026年5月)

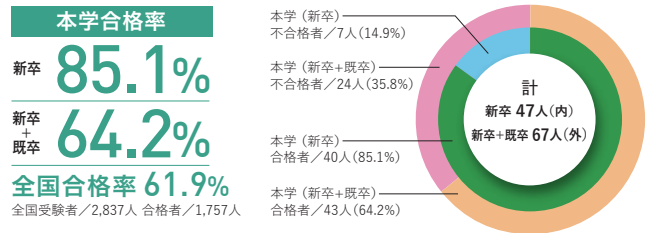
昇任	1月	島田 栄理遣	講師	病院矯正歯科
昇任	3月	濱井 瞭	講師	生体材料理工学分野
昇任	4月	田中 恭恵	准教授	加齢歯科学分野
昇任	4月	千葉 美麗	准教授	歯学イノベーションリエゾンセンター
昇任	4月	瀬名 浩太郎	准教授	予防歯科学分野
昇任	4月	白土 翠	講師	先端フリーラジカル制御学講座
昇任	4月	MOE SANDAR KYAW	講師	歯科保存学分野
昇任	4月	小坂 萌	講師	口腔器官解剖学分野
昇任	5月	西岡 貴志	准教授	歯学イノベーションリエゾンセンター
採用	2月	中野 将人	助教	歯科保存学分野
採用	4月	HAN YU	助教	顎口腔組織発生学分野
採用	4月	LIN ANGYI	助教	顎口腔矯正学分野
採用	4月	FAN ZIQU	助教	顎口腔矯正学分野
採用	4月	SARA REDA HELMY SAMMOUR	助教	総合歯科学分野
採用	4月	HANEEN RAAFAT FATHI MOUSA	助教	口腔生化学分野
採用	4月	塩田 千尋	助教	国際歯科保健学分野
採用	4月	衣川 安奈	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
採用	4月	岩淵 太人	助教	病院咬合回復科
採用	4月	東 友太郎	助教	病院歯科顎口腔外科(疾患制御グループ)
採用	4月	大竹 孝幸	助教	病院咬合修復科
採用	4月	伊藤 彩	助教	病院口腔支持療法科
採用	4月	加納 佳与子	助教	病院矯正歯科
採用	4月	木村 祥也	助教	病院矯正歯科
採用	4月	加地 仁	助教	病院総合歯科診療部
採用	4月	佐々木 詩織	助教	病院歯科麻酔疼痛管理科
採用	4月	後藤 弓里子	助教	病院周術期口腔健康管理部
採用	5月	SAFAEE SIRUS	助教	先端フリーラジカル制御学講座
採用	5月	PARAJULIRAJ KUMAR	助教	先端フリーラジカル制御学講座
再採用	4月	小山 重人	特任准教授(研究)	口腔システム補綴学分野
退職	3月	野上 晋之介	准教授	病院顎顔面口腔再建外科学分野
退職	5月	渡辺 隼	助教	病院歯科医療管理部
退職	5月	中村 恵	講師	顎口腔組織発生学分野
定年退職	3月	中井 淳一	教授	口腔生理学分野
定年退職	3月	菅原 由美子	助教	歯科医情報学分野
定年退職	3月	小山 重人	准教授	病院顎顔面口腔再建治療部

定年退職	3月	佐藤 しづ子	助教	病院総合歯科診療部
任期満了	3月	MA JINGHAN	助教	顎口腔矯正学分野
任期満了	3月	茂見 翔平	助教	病院矯正歯科
任期満了	3月	沼崎 研人	助教	顎口腔矯正学分野

2025年度各賞受賞

総長賞		塩田 千尋(大学院)	佐藤 莉帆(学部)
大学院	研究科長賞	FAN ZIQU, YANG HUI	
	優秀学位研究賞	衣川 安奈, HANEEN RAAFAT FATHI MOUSA, SARA REDA HELMY SAMMOUR, LIN ANGYI, 大竹 航孝, 成田 昂平	
学部	歯学部長賞	刘 童昕	
	モリタ・ハノー賞	落合 爽太郎	
	クインテッセンス賞	佐藤 莉帆	由井 寛仁
	ICDアワード	鶴田 七海	
	アクション・ジャパン賞	落合 爽太郎	鈴木 瑤之亮
	朝日レントゲン賞	岩田 紗也加	
課外活動賞		前田 春那	孫 瑞雪

第119回(2025年度)歯科医師国家試験合格率



歯学研究科大学院募集

2027年4月入学 ・博士課程：42名 ・修士課程：8名

- 出願受付期間(1次募集)：2026年6月8日(月)～12日(金)
- 試験日(1次募集)：2026年7月10日(金)
- 出願受付期間(2次募集)：2026年11月2日(月)～9日(月)
- 試験日(2次募集)：2026年12月4日(金)

詳細は、歯学研究科ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.dent.tohoku.ac.jp/>

お問い合わせ

東北大学大学院歯学研究科 教務係
Tel: 022-717-8248 Fax: 022-717-8279

顎口腔矯正学分野の大学院生(現 助教)
FAN ZIQUさんが中国人留学生の荣誉を授かる

FAN ZIQUさんが「2024年度中国国家優秀私費留学生奨学金」を受賞し、2025年11月21日(金)に中国駐日大使館主催の授賞式に出席しました。この奨学金は、全中国人留学生約12万人の中から極めて優秀な成績を収めた研究者に授与されるもので、中国人留学生にとって最高の荣誉とされています。さらに、本学大学院に在籍する優秀な中国人留学生に授与される「2025年度東北大学藤野先生記念奨励賞」も受賞しました。



▲ FAN ZIQUさん(中央)と指導教員の北浦英樹准教授(左)

編集後記

「どんなことがあっても、研究者ならうまくやっています」。これは、2025年度をもって退職された中井淳一教授(口腔生理学分野)の最終講義でのメッセージです。自ら問いを立て、トライ&エラーを繰り返しながら答えを探していく姿勢は、めまぐるしい変化の時代を生き抜く力になる、と。先生方や学生の皆さんのそうした研究者マインドを日々感じながら、広報室では研究科・学部の取り組みの発信により一層努めていきたいと存じます。今後とも、ご支援とご教示をいただければ幸いです。よろしくお願いたします。

(記 池田)

ご意見・ご感想は下記よりお聞かせください

アンケートフォーム：<https://www.dent.tohoku.ac.jp/enq/news33>



編集・発行

東北大学大学院歯学研究科・歯学部 広報室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

Tel:022-717-8260 Fax:022-717-8279

E-mail:den-koho@grp.tohoku.ac.jp

Facebook:@Tohoku.University.School.of.Dentistry

X(旧Twitter):@tohoku_uni_dent

Instagram:@tohoku.univ.dent

web:<https://www.dent.tohoku.ac.jp/>